



今夏の電力需給の概要について

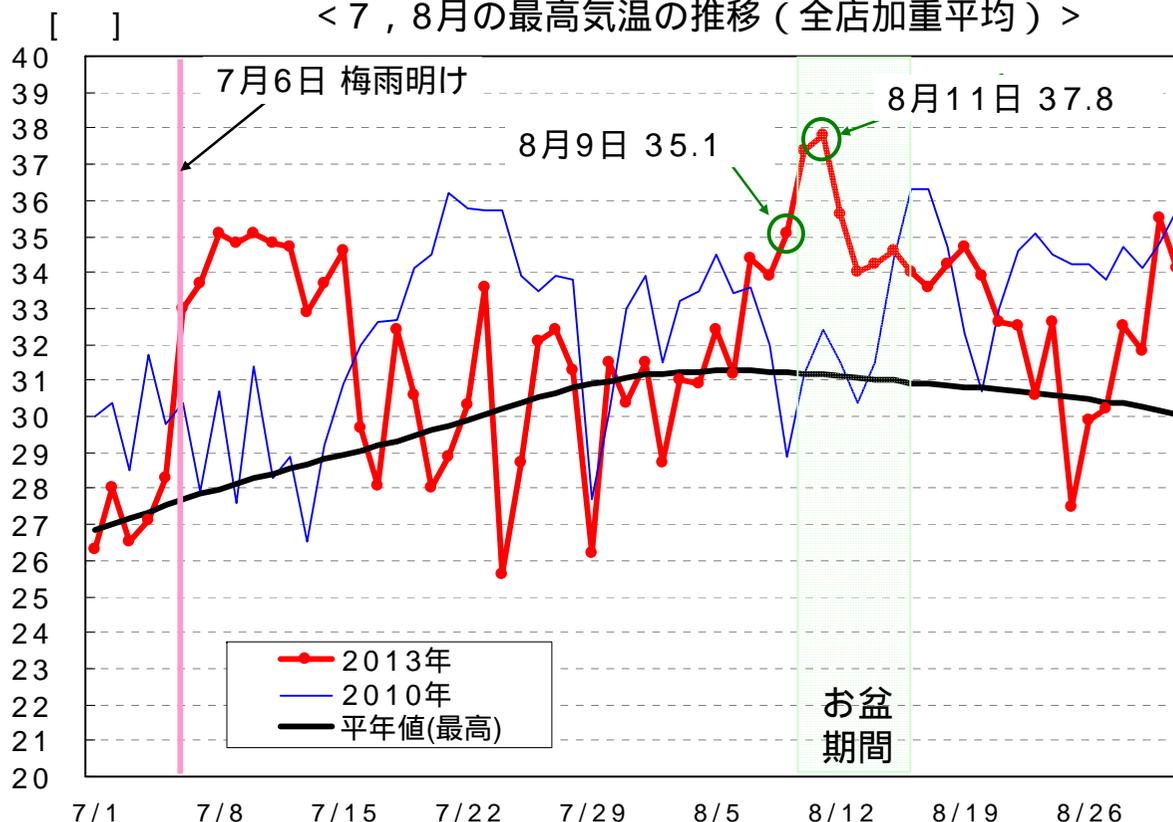
2013年9月26日
東京電力株式会社



今夏の気象状況

- ・ 今夏(7月～8月)の月平均の最高気温()は、平年を上回ったものの、記録的猛暑となった2010年を下回る水準
- ・ 梅雨明け直後および8月中旬に高気温が発生したが、その他の期間は平年並の気温で推移(梅雨明けは7月6日で1951年以降第4位の早さ、8月11日(日)の37.8 ()は1969年以降第2位の高気温)
最高気温は、当社営業エリア内の全店加重平均値

< 7, 8月の最高気温の推移 (全店加重平均) >



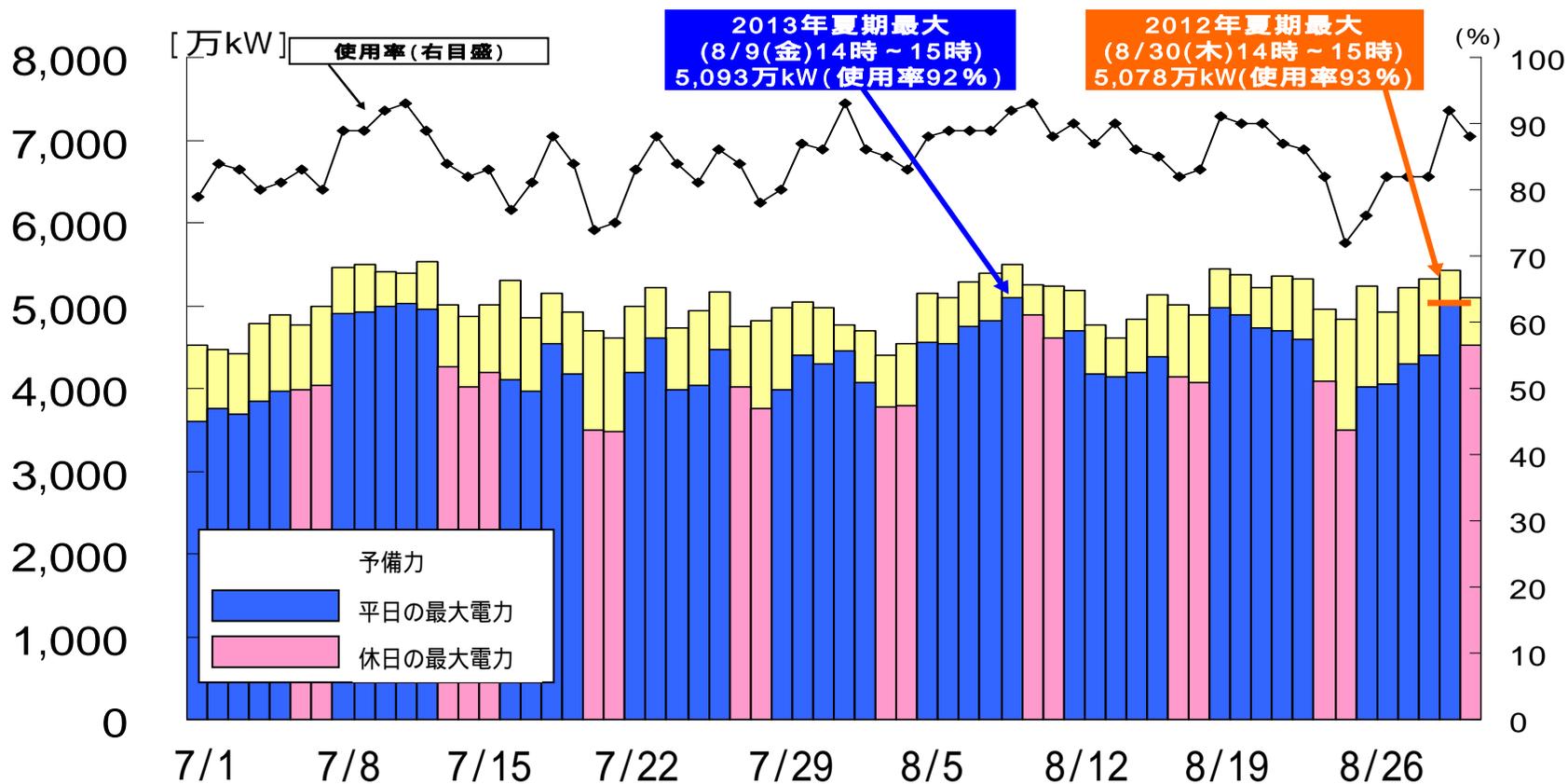
	月平均の最高気温	
	7月	8月
2013年	30.9	33.0
2012年	30.1	33.1
2010年	31.5	33.4
平年	29.1	30.9
2012年差	0.8	0.1
2010年差	0.6	0.4
平年差	1.8	2.1

気温は全店加重平均
 梅雨明け：7月6日頃
 [平年(7月21日頃)に比べ15日早い]



今夏の需給状況

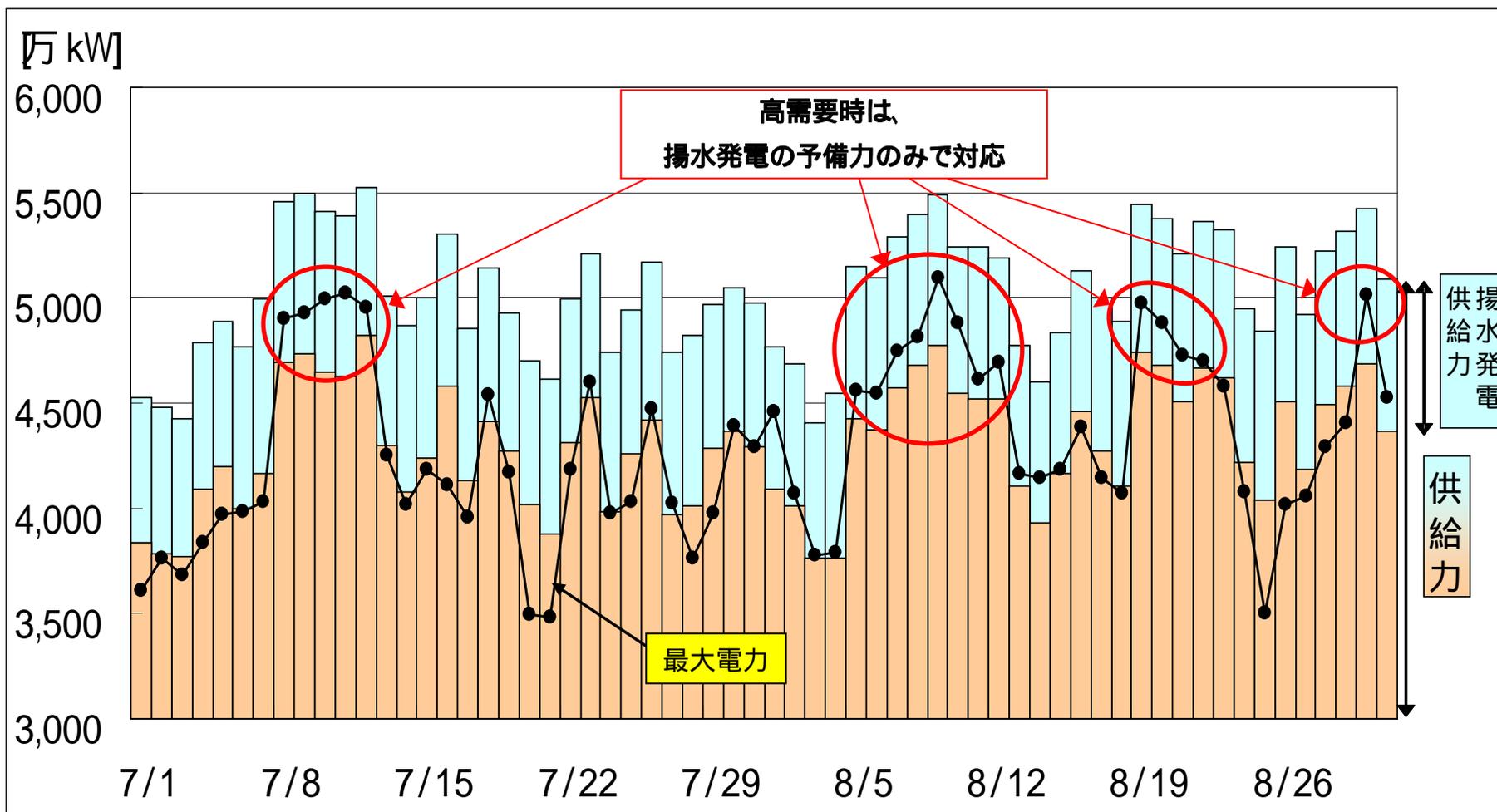
- 今夏(7月～8月)の最大電力は、8月9日(金)に記録した5,093万kW(最高気温は、当社営業エリア内の全店加重平均値:35.1。供給力:5,494万kW)
- 今夏の最大電力(5,093万kW)は、前年度実績(8月30日[木]5,078万kW、同35.0)を15万kW上回り、震災後最大を記録
- 使用率が最大となったのは、7月11日(木)および8月1日(木)、10日(土)の93%
- また、使用率が90%以上になったのは7月～8月で11日間(9月は1度のみ)





今夏の予備力の保有状況

- 予備力に余裕のある時期を選定のうえ、火力電源の補修・効率停止を実施し、トラブルの未然防止に努めた
- 高需要時は、揚水発電の予備力のみで対応

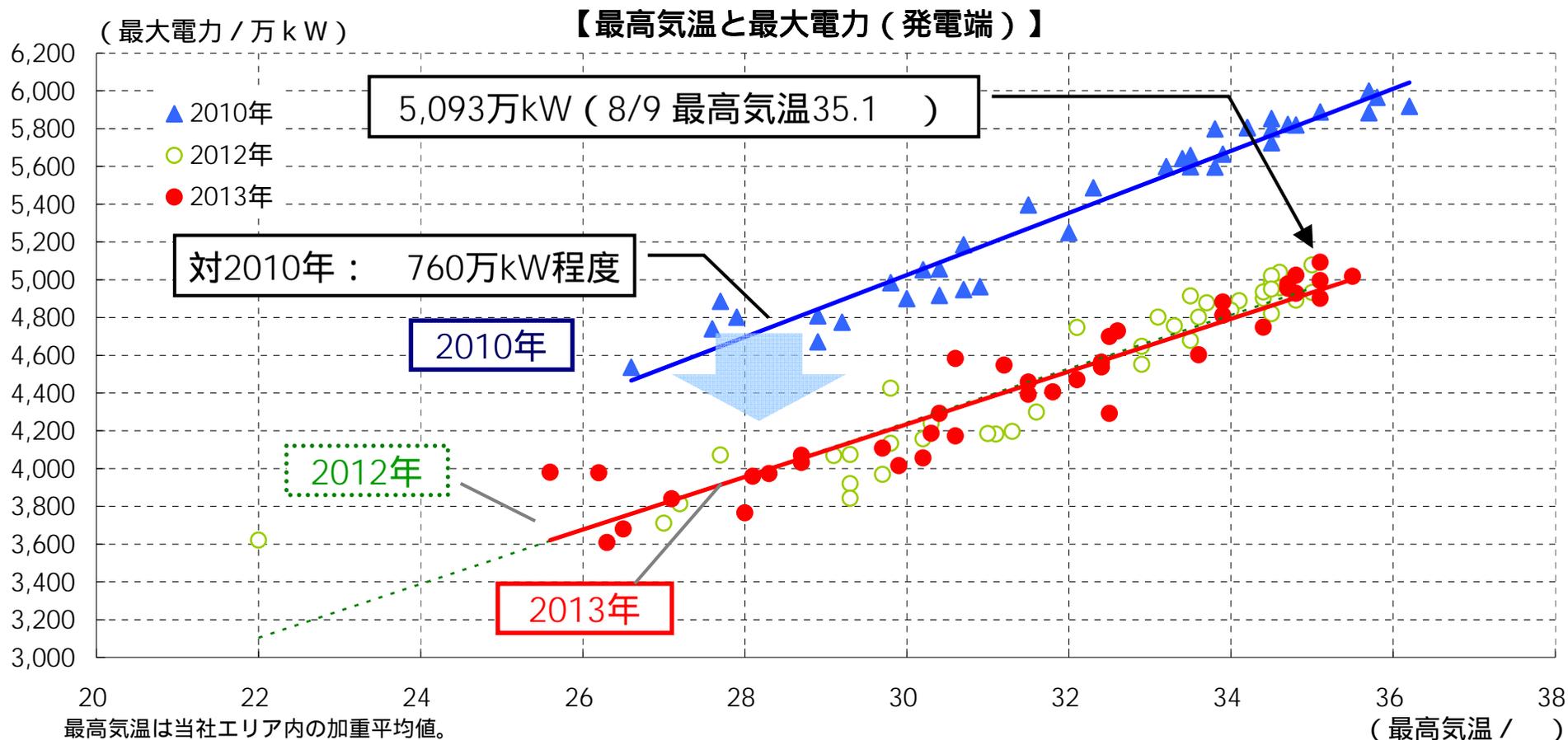




最大電力の昨夏以前との比較

- ・ 8月のお盆前後に高気温が継続して発生し、8月9日に5,093万kWを記録
- ・ 2010年実績:5,999万kW(906万kW)、2012年実績:5,078万kW(+ 15万kW)
- ・ 今夏の最大電力の水準()は、震災前の2010年実績を760万kW程度下回り、2012年実績並み

7~8月の平日平均(お盆期間を除く)、最大電力はすべて発電端ベース





今夏最大発生日の需給状況

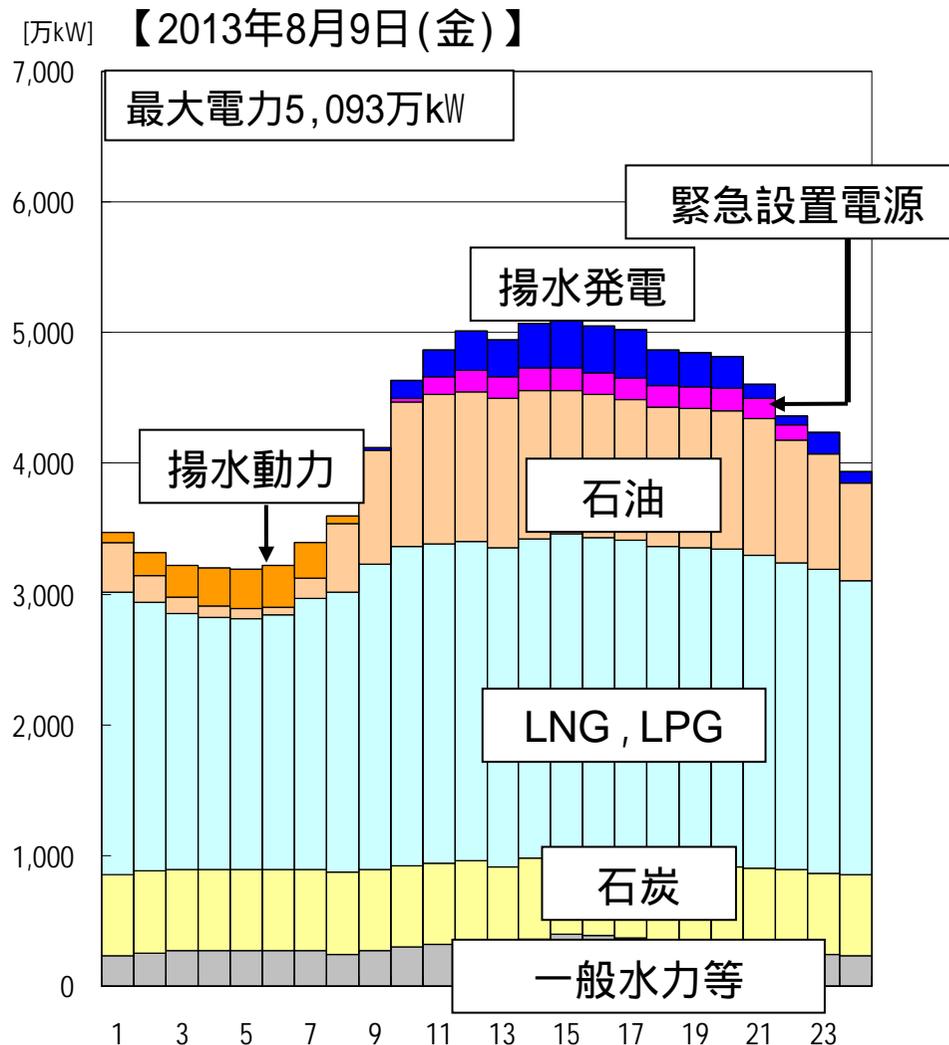
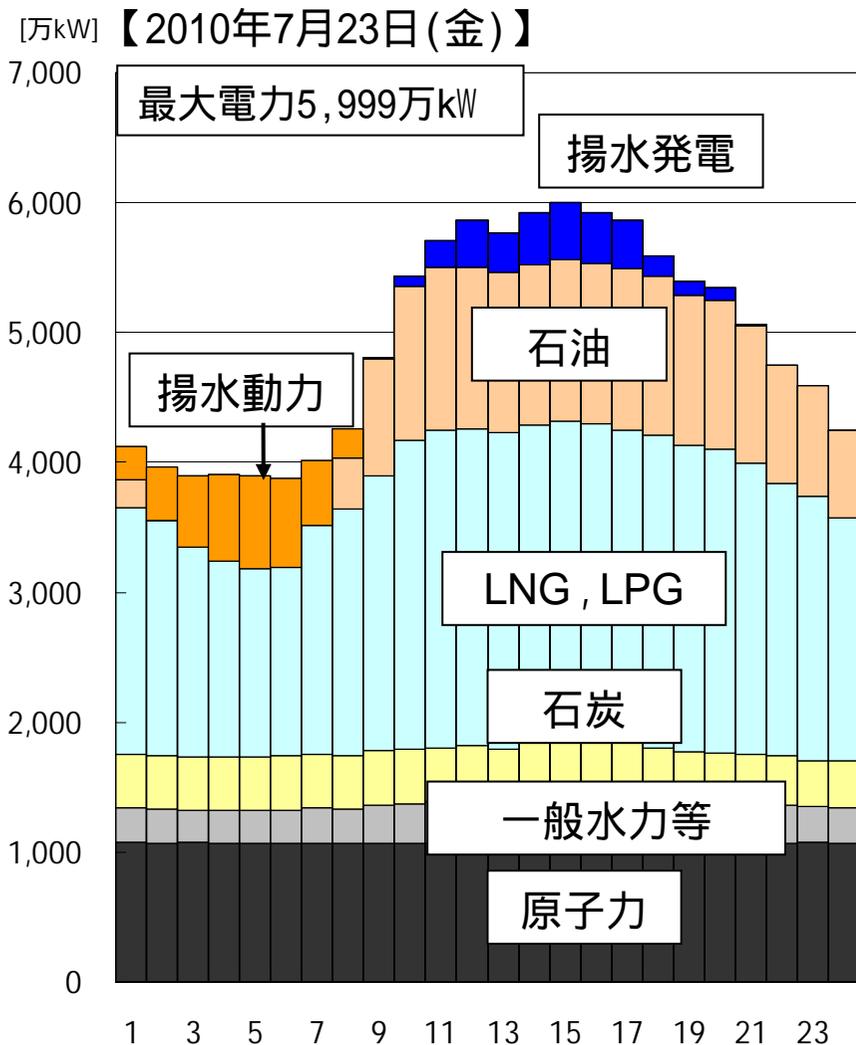
- ・ 皆さまにご協力いただいている節電の効果などにより、安定供給を確保
- ・ 仮に今夏最高気温37.8（8月11日[日]、全店加重平均）が平日（お盆除く）に発生した場合、最大電力は5,450万kW程度の水準に達していたものと推計

	8月需給見通し (4/26公表)	最大需要発生日 実績(8/9)	(差異)	備考
供給力 - 需要[万kW] 使用率(予備率)	363 93%(6.7%)	401 92%(7.9%)		
需要 (発電端1日最大) [万kW]	5,450	5,093	357	
供給力 [万kW]	5,813	5,494	319	
原子力	0	0	0	
火力	4,529	4,375	154	・増出力の未実施, 補修(富津3-2軸)等
水力	298	285	13	・出水状況による減等
揚水	900	720	180	・運用状況による減
太陽光等	20	58	38	・日射量に恵まれたこと による増
新電力への供給等	67	56	11	・新電力への供給増



【参考】最大電力発生日の需給状況(2010-2013年)

- 震災後は、節電の効果はあるものの、原子力電源の減少により、火力発電の高稼働および揚水発電により供給力を確保している状況





【参考】今夏の供給力として新たに計上した電源

- 試運転中の常陸那珂火力発電所2号機や広野火力発電所6号機は、夏期期間中、定格出力での試運転を継続

	ユニット	定格出力 (万kW)	燃料種別	試運転開始	営業運転開始 (予定)
火 力	常陸那珂火力発電所2号機	100	石炭	2013年4月4日	2013年12月
	広野火力発電所6号機	60		2013年4月12日	

< 常陸那珂火力発電所2号機 >



< 広野火力発電所6号機 >



以 上